

【事例6】新元号が入る予定の「■ ■」まで「欠陥箇所」とは!… 教科書調査官の底知れぬ悪意

[指摘事項] 教科書 P9



[指摘事項] 教科書 P11

めることになりましたので、明治、大正、昭和、平成、
■と天皇の在位期間で時代を区分しています。

[指摘事項] 教科書 P49

れず、中国の元号と同じ元号を使っていた国
もあります。日本は最初の元号の「大化」か
ら、平成31年に新たに定められた「■ ■」
に至るまで、248の元号をすべて独自に制定
してきました。現在でも元号を使いつづけて
いる国は、世界で日本だけです。→P.9

[指摘事由]

生徒にとって理解し難い表現である。

[指摘事項] 教科書 P279

太子殿下が第126代天皇に即位し、新しい元号
は◆◆と定められました。

しかし今回の譲位は特例法に基づくものであ
り、今後このような事例が起きた場合、このような

平成から○○へ 2019年には天皇陛下が上皇陛下か
譲位を受けて即位し、元号が○○と
変わりました。また日本は2020年の東京オリンピック・パラ
リンピックの誘致に成功し、国民に大きな希望と誇りをもたらしま

新元号「令和」は早くに発表される予定であった
が4月1日にズレ込んだため、同月の検定申請に印
刷が間に合わなくなった。[指摘事項]の■ ■・◆◆・
○○はすべてそのためであることは自明であるにも
かかわらず、嬉々として「欠陥箇所」に指定するとは、
その底知れぬ悪意に仰天する。

[指摘事項] 教科書・巻末折込年表
2019 二〇一九・今上陛下が即位 新元号を○○と定める

【事例7】中華人民共和国は「共産党政権」ではない?… 木を見て森を見ない教科書検定の愚

[指摘事項] 教科書 p264 表 ケイ線で囲んだ部分

年	アメリカ中心の自由主義陣営	ソ連中心の共産主義陣営
1945	国際連合成立	
1946	チャーチル(英)「鉄のカーテン」演説でソ連圏の閉鎖性を批判	ソ連が東欧を占領
1947	トルーマン(米)共産主義封じ込め政策発表 日本占領政策転換	ヨーロッパ各国共産党の連絡機関としてコミンフォルム結成
1948		ベルリン封鎖(ソ)
1949	北大西洋条約機構(NATO)成立	中華人民共和国(共産党政権)成立
1950	朝鮮戦争おこる(北朝鮮軍の軍事侵入)	
1955		ワルシャワ条約機構(WTO)成立
1956		スターリン批判(ソ)
1957		初の人工衛星打ち上げに成功(ソ)
1960	日米安保条約改定	
1961		ベルリンの壁設置
1962		キューバ危機
1965~75		ベトナム戦争
1966		文化大革命始まる(中)
1972	ニクソン(米)中国訪問	
1976		ベトナム社会主義共和国成立

アメリカ中心の自由主義陣営」と「ソ連中心の共産主義陣営」を対比して示すもので、「連合政権」と書けば意味不明な年表になる。木を見て森を見ない「揚げ足取り検定」の典型だ。

[指摘事由]

生徒が誤解する
おそれのある表現である。
(成立時の
中華人民共和国の性格)

教科書調査官は「反論認否書」で、「成
立時の中華人民共和国は連合政権であ
り、申請図書の記述では、共産党政権
であると誤解するおそれがある」と言
う。

しかし、形式上「連合政権」である
としても、それが「共産党政権」でな
くなるわけではない。この年表は、ア

これが文科省の 「トンデモ検定」だ!!

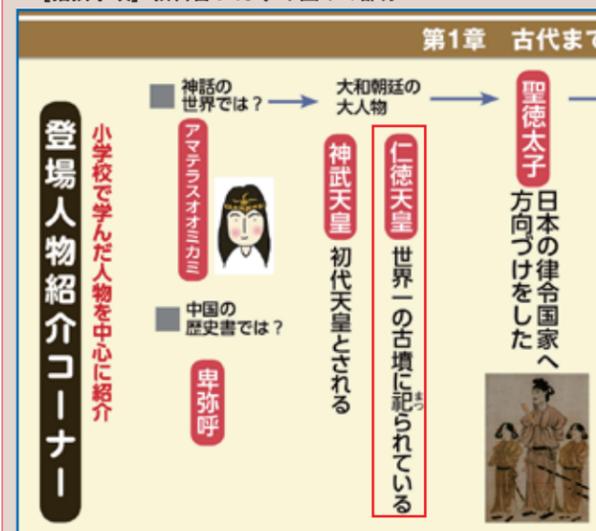
教科書調査官の職権乱用を許すな!! 自由社版『新しい歴史教科書』執筆者グループ

平成31年(2019年)4月に検定申請し、同じ年の令和元年12月に「欠陥箇所が著しく多い」として「不
合格」通告を受けた自由社版『新しい歴史教科書』。しかし、指摘された「欠陥箇所」とは、いかなる
ものだったのか。その検定の驚くべき実態をいくつかのケースを通して明らかにする。

検定に当たった教科書調査官[村瀬信一/橋本資久/中前吾郎/鈴木楠緒子]の4人は、以下のよう
に、理屈にならない理屈を次々と繰り出し、日本語の言葉の意味すらまともに読めない驚くべき低学力
ぶりをさらけ出した。これはもはや「検定」とは言えない文科行政上の一大スキャンダルであり、明白
な不正である。このままで済ますことは絶対に出来ない重大問題であることを広く訴えたい。

【事例1】仁徳天皇は古墳に「祀られて」いないの?… 日本語が分からない教科書調査官

[指摘事項] 教科書 P19 ケイ囲みの部分



[指摘事由]

生徒が誤解するおそれのある
表現である。「祀られている」

「第1章 古代までの日本」の登場人物として、仁徳天
皇を「世界一の古墳に祀られている」と紹介したところ、
「祀られている」は「生徒が誤解するおそれのある表現で
ある」という理由で欠陥箇所に入れられた。教科書調査
官との面接では「葬られている」が正しい表現だと指摘
された。

しかし、古墳に「葬られている」とした場合、「被葬者
は果たして仁徳天皇か否か」という別の議論を誘発する
ことになり、逆に混乱を与える。

仁徳天皇陵も古墳としては「大山古墳」とも呼ばれているのはそうした事情によるのであり、被葬者や建
造時代などについては議論の余地が残されている。だから、「葬られている」と書く方がはるかに誤解される
可能性があるといえる。

他方で、124代に及ぶ天皇陵は宮内庁によりそれぞれの天皇の陵に比定されている。累代の天皇陵は単なる
墓所ではなく、宮内庁によって祭祀の対象とされ、拝所や鳥居も設けられている。このようにして崇拜の
対象となっている以上、「祀られている」の表現には何らの問題はなく、「生徒が誤解するおそれ」もない。
指摘事由には何の根拠もない。自由社の歴史教科書は、こうした配慮のもとに編集されており、これがわか
らない教科書調査官は日本語の理解能力が欠如しているのである。

【事例2】 聖徳太子は律令国家の方向を示した… 学習指導要領を読まない教科書調査官

[指摘事項] 教科書 P47 ケイ囲みの部分

聖徳太子と仏教と 聖徳太子は、607年に法隆寺を建てる
古来の神々 などの、仏教を篤く信仰しました。しか

し、同時に、日本古来の神々を大切にすることも忘れませんでした。この年の儀式で、太子は多数の役人をひき連れ、朝廷は伝統ある神々を祀り続けることを誓いました。こうした姿勢は、外国の優れた文化を取り入れつつ、自国の文化も大切にするという日本の文化的伝統につながったと考えられます。

聖徳太子は、内政でも外交でも、8世紀に完成する日本の古代律令国家建設の方向を示した指導者でした。太子が活躍した7世紀には、政治や文化の中心が奈良盆地南部の飛鳥地方にあったので、このころを飛鳥時代とよびます。

【指摘事由】
生徒にとって理解し難い表現である。
(聖徳太子と古代律令国家建設との関係についての学説状況)

教科書は学習指導要領に基づき編集・執筆される。教科書検定も学習指導要領に基づき行われる。最終的な決め手となる学習指導要領には次のように書かれている。

「律令国家の確立に至るまでの過程」については、聖徳太子の政治、大化の改新から律令国家の確立に至るまでの過程を、小学校での学習内容を活用して大きく捉えさせるようにすること。

「聖徳太子の政治」が「律令国家の確立に至るまでの過程」の最初に置かれているのは、まさに聖徳太子が律令国家への方向性を示す政治を行ったからにはほかならない。関係がないなら、ここに置かれているはずがない。P47の本文の記述は、このような学習指導要領の趣旨を生かしたものである。何の問題もないし、「生徒にとって理解し難い表現」などどこにもない。前ページの【事例1】には、同じことが聖徳太子の紹介として書かれているが、これについては欠陥箇所指定されていない。

いい加減極まりない検定だ。教科書調査官は学習指導要領を読んでいないと断言できる。

【事例3】 朝鮮出兵は16世紀「世界最大規模」の戦争… 新機軸を排除する検定

[指摘事項] 教科書 p115

【指摘事由】
生徒が誤解するおそれのある表現である。
(確立した見解であるかのように誤解する。)

朝鮮出兵って16世紀では世界最大規模の戦争だったといわれてるわ。



「文禄の役」(1592年)において日本は15～20万人を派遣した。「慶長の役」(1597年)では日本が14万1500人、朝鮮が17万人前後の軍に義勇軍が2万人以上、明が4万～10万人近い遠征軍を送った。「慶長の役」での参加兵力の合計は37万人余～43万人余となる。

他方、ドイツ農民戦争(1524～1525年)は最大に見積って30万人だ。ヨーロッパが朝鮮出兵を上回る兵力を動員したのは17世紀の

30年戦争になってからである。16世紀末、明の「万暦の三征」の一つ「楊応龍の乱」で楊応龍の軍が14～15万人、迎撃に向かった李化龍の軍は24万人で、合計38～39万人だ。従って、少なくとも16世紀において朝鮮出兵が「世界最大規模」の戦争であることに間違いはない。

教科書検定は明白な誤りの指摘にとどめるべきで、「確立した見解」ではないとの理由で新たな知見や教科書編集上の工夫を抹殺するなら、歴史教科書はありきたりの「確立した見解」しか載らないつまらないものとなるだろう。指摘箇所は世界との関わりを重視した学習指導要領を踏まえて工夫された教材であり、今回の検定は学習指導要領の方針にも反するものである。

【事例4】 毛利輝元は西軍の大將ではないの？… 次元の違う細部をあげつらう詭弁

[指摘事項] p108 ケイ囲みの部分

② 300年以上命脈を保った毛利氏

守護大名の配下から下剋上でのし上がった戦国大名の代表的人物が、毛利元就です。元就が毛利家を継いだときは、豪族の尼子氏に仕える安芸(広島県)のひとりの国人にすぎませんでした。しかし、その後その尼子氏や守護大名の大内義隆を破った陶晴賢らを次々と破り、ほぼ中国地方全土を支配する大名となりました。



元就の孫、輝元てるもとの時代には豊臣秀吉政権の重臣となり、関ヶ原の戦いでは西軍の大將格として徳川家康に敗北しました。しかし多くの戦国大名が減っていった中で、周防、長門両国(山口県)を治める大名として、江戸時代の幕末まで300年以上命脈を保ち、薩摩の島津氏とともに、明治維新の原動力の役割をはたしました。

【指摘事由】
生徒が誤解するおそれのある表現である。
(輝元が関ヶ原で実際に戦闘に参加したかのように誤解する。)

慶長5(1600)年当時の大きな政治対立の中で、毛利輝元が西軍の大將格となり、敗者となったことは今日の学説状況からしても違和感はない。今や石田三成を西軍の大將と安易に記述することこそ、実態と乖離した見解と言える。

毛利輝元が実際に戦闘に参加したかどうかをもって教科書の記述を問題視する教科書調査官の見解は異常だ。

また、該当箇所は毛利氏について記述した小コラムの中の話であり、関ヶ原の戦いについては別のページの本文において学習上必要な記載をしている。生徒が「誤解するおそれ」などあり得ない。

教科書調査官のこのような横暴な指摘を認めるならば、例えば「足利義満が建てた金閣」は「実際に足利義満が現場で大工として金閣を建てたと誤解する」という理由により歴史教科書での記述は認められないはずだが、そんなことはない。詭弁による恣意的な検定の動かぬ証拠である。

【事例5】 坂本龍馬は大政奉還に関与せず？… 私見の強要か、研究動向への無知か

[指摘事項] P162 ケイ囲み

⑤ 坂本龍馬(1835～67) 土佐藩を脱藩した浪人で、薩摩、長州両藩を説いて薩長同盟を実現させました。土佐藩を通じて徳川慶喜に大政奉還をはたらきかけたともいわれます。(高知県立歴史民俗資料館蔵)



【指摘事由】
生徒が誤解するおそれのある表現である。
(龍馬の実際の行動)

坂本龍馬が慶応3年に薩摩・土佐両藩の間で周旋を行い、両藩が大政奉還について合意した薩土盟約の議論にも参加していたことは、史料上明白である。

また、大政奉還前日にその採否を決める会議に出席する後藤象二郎に宛てた龍馬の書簡が確認されており、この事実を報じる最近の新聞記事は文科省にも提出済みである。教科書では現在の研究状況を慎重に判断して「はたらきかけたとも

いわれます」と断定を意識的に避けた記述をした。これをも「生徒が誤解するおそれがある」と排除することは、もはや教科書調査官個人の私見の強要と断ずるほかはない。もしくは、近年の研究動向を正確に把握できていない人間が検定を行っているかのどちらかだろう。